

## 【 ICT 活用実践紹介】



ピッチを速度に  
合わせる

### 【花里小 ○○先生の実践】

**教科**：音楽「いろいろななくにのおどりの音楽」

**活用ツール**：iMovie

**類型**：B1（個に応じる学習）

**内容**：動画の速さを遅くする

1. 【準備】動画を撮影する。「ティニクリン」
2. 【準備】iMovieに動画を入れる。
3. 【準備】「プロジェクト設定」→「ピッチを速度に合わせる」にチェックを入れる。
4. 【準備】動画を選び「速度」の設定を変える。  
(8分の1～2倍まで変更可能)
5. 【授業】始めは1倍で動画を見せる。
6. 【授業】実態に合わせて遅くする。

**感想**：「ティニクリン」のステップは、初めてだから曲の速度が速いと合わせにくい。普通、速度を変えるとピッチ（音の高さ）が変わって変な感じがするけど、iMovieだとピッチを速度に合わせることができるので便利。リコーダー練習にも使えそう。

### 【花里小 岡田の実践】

**教科**：図工「いろいろな光～「やまなし」より」

**活用ツール**：カメラ

**類型**：B1（個に応じる学習）

**内容**：水の動きを把握する

1. 【授業】水槽，ボールを準備する。
2. 【授業】自分がイメージする角度で写真（連写，動画）を撮る

**感想**：児童から「やまなしが落ちた時の水の感じがわかりません。」と質問があったので、水槽とボールを準備してやって見せた。すると「一瞬でわからない」といったので「タブレット使ってもいいよ。」と伝えると「連写で撮ろ！」「動画のほうがいいんじゃない？」など自分たちでよりよい使い方を考える姿があった。

上からの水しぶきを描きたい



横からの水しぶきを描きたい

### 【岡田のおもいつ記】

音楽の実践では、授業者が話すように速度を変えて練習したいときにも使える実践だと感じました。また、授業者にインタビューをしていた中で、「速さだけを変えられるので、曲に合った速さを意識させることもできそう。」とも話していました。一つの実践でいろいろな場面で活用できるのもICTの汎用性の高さだと思いました。

図工の実践では、水しぶきの動画や画像を調べることも可能ですが、水に物が落ちる体験をさせることが大切だと思いこのような実践を行いました。水槽に浮かぶボールを眺めていた児童が「下から上の（水面から出ている）部分が見えない。」や「横から見るとボールがずれている。（光の屈折から）。」などということに気がついていました。作品に生かすかどうかはまだわかりませんが、実際にやってみることで発見できることもたくさんあることを感じました。ICTを使う部分、実物で行う部分を見極めていきたいと感じました。